

2004年2月9日

各位

会社名：株式会社 ドン・キホーテ  
コード番号：7532 東京証券取引所第一部  
情報開示責任者：取締役経営戦略本部長 高橋 光夫

## 当社に係わる一連の報道について

2月6日(金)以降、害虫駆除会社「株式会社キャッツ」の株価操縦容疑事件に関し、あたかも弊社が株価操縦資金の一部を提供していた疑いがあるような報道が一部でなされておりますが、「弊社は1円たりとも貸与もしくは提供など、一切致しておりません。」

なお、東京地検特捜部による捜査の事実関係に関しましては、複数の報道にありましたとおり、キャッツ関係先への捜索箇所が60ヵ所以上に及ぶことを配慮し、東京地検との打ち合わせにより、事件の真相究明の為に捜査の一助として公表することを差し控えておりました。

しかしながら、一部の報道が真実とは異なる方向に向かっている事態を危惧し、ここまで確認できた事実を明らかにさせていただきます。

弊社代表取締役安田隆夫は、知人である「大友氏(キャッツ前社長)」から、個人的に資金が急に必要になったとの理由から、再三「金を借して欲しい」と懇願され、企業家同士として親交があり、人間関係を損ないたくない気持ちが強く、「安田隆夫」個人の資金において依頼に応じたとのことです。

なお、資金を貸与するに当たっては、当時業績良好であった「キャッツ株式(大友氏名義)」を担保として預かり、十分な与信保全を図った上で、対応しております。

そもそも、「株式」が人為的に操作されていることを知っていたならば、担保として預かった株券(キャッツ株式)が、いつ暴落してもおかしくないことは、当然予想された訳ですから、担保価値に疑問が生じ、当該株券を担保として融資することなどは絶対にありえません。

また、大友氏が借金を申し込む際に、不正行為を万が一にも口にすれば、その瞬間に安田隆夫が金員を貸与する意欲が無くなってしまうことは、「大友氏」には明白であったはずで

その点からも、「大友氏が株価操作を示唆し、また、そのことを承知した上で借金の申し込み依頼を受諾」することは、安田隆夫が露とも認識できなかったこととして、ご理解頂けることと思

すなわち、当該株券を担保として預かったこと自体が、当該事件の可能性を認識していなかったことの証明になると思

なお、貸与した金員は、3ヵ月ほどで全額返済されており、担保として預かった株券も同時に返却済みであります。

また、貸与した金額については、今後の捜査に配慮して、具体的な金額を現時点で申し上げるのは差し控えますが、メディアにより報道されている数十億円に程遠い金額であることは申し添えてお

弊社並びに安田隆夫は、一日も早い事件の解明を願い、東京地検からの協力要請には、全面的に協力をして参る所存であります。

本事件は、いずれ真相が明らかになり、弊社と何ら係わりのないことが判明するものと断言致します。

お客様、株主、投資家の皆様並びにお取引先の方々には大変なご心配とご迷惑をお掛け致しましたことを心よりお詫び申し上げます。本事件の一日も早い解決を心より願います。

以上

< 本件に関する問い合わせ先 >

IR 専用メールアドレス：ir@donki.co.jp